



大和川つけかえの史跡探訪ガイドブック編集委員会

黒田伊彦 小松清生 小松 忠 澤井健二

谷 幸三 辰谷直子 堀越善孝 万歳雅則

協力者

大阪市平野図書館 柏原市立歴史資料館 羽曳野市教育委員会

藤井寺市観光協会 藤井寺市教育委員会 藤井寺市秘書広報課

松原市民ふるさとびあプラザ 松永白洲記念館

上田 睦 木村淳弘 金 勝男 中 九兵衛 中山經正 西田孝司

西田敬之 長谷川正禮 古野燕安 堀口澄子 吉澤則男 吉村 香

2019年3月 編集・発行

大和川市民ネットワーク

☎ 080-2444-2098 fax 072-254-1717

<http://ycn-2009.ciao.jp>

この本は（公財）河川財団の助成を得て作られたものです。



河川
基金

歩いて 見て 考えて 楽しもう

大和川つけかえの 史跡探訪ガイドブックⅡ



藤井寺・羽曳野・松原コース



藤井寺市大井の^{おおすいがわ}大水川散策緑道
大和川つけかえで流路をかえた大乗川の跡
桜並木の奥が大井水みらいセンター

(写真:藤井寺市秘書広報課提供)



松原市若林の古市街道
落堀川にかかる中橋

.....大和川市民ネットワーク.....

歩いて 見て 考えて 楽しもう

大和川つけかえの史跡探訪ガイドブックⅡ

藤井寺・羽曳野・松原コース

もくじ



●藤井寺・羽曳野コース

(1) 大和川に沈んだ舟橋新家村 藤井寺市の船橋と小山で発掘された堤防断面 ☆コラム「きれいな川へ 瀬と淵浄化施設」	4
(2) 大和川河川敷と南河内の動植物	6
(3) 大乗川のきりかえと石川 ☆コラム「石川河川公園と石川の市民活動」「伏流水が水源の羽曳野市営水道」 「石川の堰と魚道」「石川の名橋 臥龍橋と玉手橋」	8
(4) 修羅のふるさと 道明寺 ☆コラム「藤井寺図書館の修羅展示ホール」	10
(5) 古市大溝と翠鳥園遺跡 ☆コラム「陵南の森と雄略天皇陵」	12
(6) 葛井寺とアイセルシュラホール ☆コラム「城跡でもある津堂城山古墳」	14
藤井寺・羽曳野コース探訪マップ	16

●松原コース

(7) つけかえで移動した川辺八幡神社と古市街道	18
(8) 東除川と落堀川 新田の開発 ☆コラム「大井水みらいセンターと小山雨水ポンプ場」	20
(9) 三宅と中高野街道 松原市民ふるさとびあプラザで学ぼう	22
(10) 布忍神社と西除川のつけかえ	24
(11) 阿麻美許曾神社と行基伝説 丹北郡の大庄屋吉村家と中山家	26
(12) 大和川つけかえと矢田 1982 年の大水害と総合治水対策	28
松原コース探訪マップ	30

はじめに

2017 年、「大和川つけかえ史跡探訪ガイドブック 柏原・八尾コース」を刊行しました。今回はその第 2 集となるものです。

大和川は奈良盆地の水を集め、柏原から北へ流れていました。洪水に苦しむ農民の願いと運動によって、大和川のつけかえがようやく認められたのは約 50 年後で、実現したのは 1704 年です。つけかえによって利益が出ると、幕府が判断したからだったようです。

大和川のつけかえは、大阪の地形をかえ、人々のくらしや産業をかえてきました。

元の川筋で新田が開発され、棉花栽培や河内木綿による経済活動が進みました。

一方、大和川つけかえは村や街道を分断し、田畑を水没させ、西除川や東除川の氾濫が問題となりました。地域には、つけかえ反対の記録やつけかえ工事での水害を防ぐ工夫、つけかえ後の新田開発などの歩みが刻まれています。

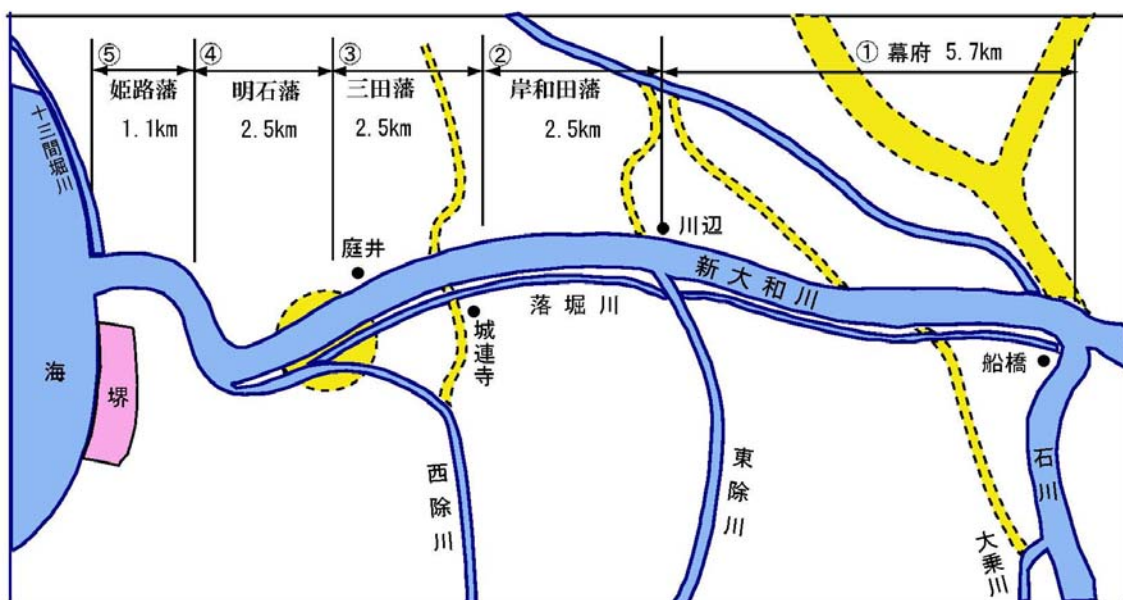
藤井寺・羽曳野・松原地域は、旧石器時代から人々が暮らし、古市古墳群や長尾街道・中高野街道・下高野街道など古い歴史が息づいています。

まちの現状や歴史、市民のまちづくりの取り組みにもふれて、わがまちへの想いが深くなることでしょう。家族やグループで現地を訪ね、新たな発見をお楽しみください。

先生方や子ども達の学習にもお役に立てば幸いです。

ガイドブック編集をすすめながら、新たな発見や学びが続きました。

各市の教育委員会始めたくさんの団体や施設、個人の皆様にご指導・ご支援をいただきました。厚くお礼申し上げます。



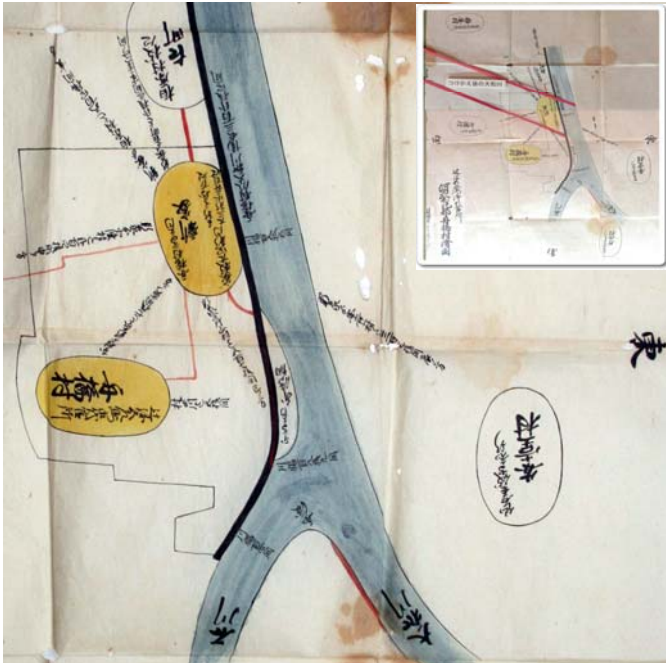
中好幸（九兵衛）「改流ノート」より

大和川つけかえ工事の担当

■元の川や池

■1704 年 つけかえ後の川と海

大和川に沈んだ舟橋新家村



かしゅうしきぐんふなはしむら
河州志紀郡舟橋村絵図（1698年）

柏原市立歴史資料館では、右上のように、新大和川を赤線で表示して展示しています

この図は、現在の藤井寺市船橋町、舟橋村と舟橋村に属する新家村を描いています。24軒が暮らす新家村は、舟橋村から北東へ70間（約127m）の位置で、奈良街道（「大阪より大和への往還」）沿いにありました。

この絵図が作成された6年後に大和川がつけかえられ、舟橋新家村は川底となっています。大和川つけかえ前の奈良街道は、柏原村古町から新家を通過して大和川の堤に上がり、石川を舟で渡って、片山村を経て大和へ向かっていたことが分かります。

船橋と松永白洲記念館

柏原から近鉄道明寺線大和川鉄橋の東側、新大和橋を南へ渡った所に大和川つけかえ起点の説明板があります。線路の下流側で堤防を下ると船橋町で、大和川を愛した書家・松永白洲の作品を展示されている松永白洲記念館があります。舟橋村庄屋だった松永家に伝わる古文書や絵図も所蔵され、貴重な学習と文化センターとなっています。

（土・日・月曜日開館・臨時休館あり）

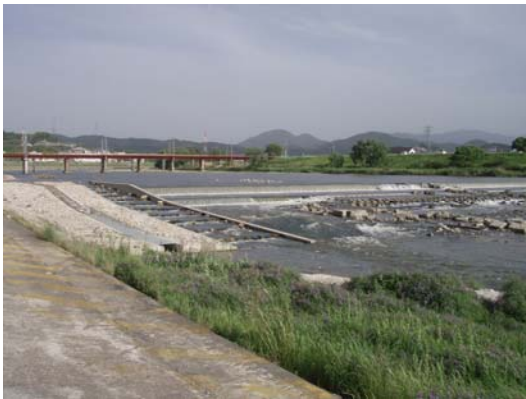


松永白洲記念館 展示の様子
北西向かいの大山咋神社の碑も白洲の書



「大和川川邊エニヨリ川底トナリシ舟橋新家村」

（松永白洲記念館に展示 2015年・古野燕安さん作（白洲氏の長女）



瀬と淵浄化施設 奥が近鉄道明寺線鉄橋 対岸が船橋

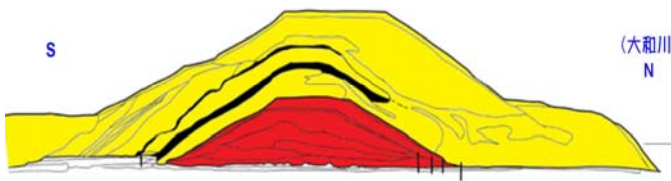
きれいな川へ 瀬と淵浄化施設

近鉄鉄橋の下流、柏原堰堤の下手に大きな石を置き、速く流れる瀬や緩やかに流れる淵を造り、自然の力で水をきれいにする試みが行われています。船橋側に人工溪流もあります。2010年に、柏原側に新しい魚道が造られました。2004年に下流でアユが見つかり、さらに上流に上るアユがふえています。

藤井寺市の船橋と小山で発掘された堤防断面



小山平塚遺跡堤防断面 (写真: 藤井寺市教育委員会)



断面図では、赤がつけかえ当時の堤防で、何度も積み重ねられたことがわかります。堤防の拡張は主に落堀川を掘った土を積み上げていったことがわかりました。土の上面が水平になっていないことから、築堤途中での叩き締めが行われず、堤防を強固にする意図がなかったようです。下流方向にのびる杭列が3列確認され、堤防に当たる水の流れを弱くするための「杭出し水制」の跡と考えられます。

断面図では、赤がつけかえ当時の堤防で、何度も積み重ねられたことがわかります。

堤防の拡張は主に落堀川を掘った土を積み上げていったことがわかりました。土の上面が水平になっていないことから、築堤途中での叩き締めが行われず、堤防を強固にする意図がなかったようです。下流方向にのびる杭列が3列確認され、堤防に当たる水の流れを弱くするための「杭出し水制」の跡と考えられます。

1997年には、藤井寺市北条地区でも雨水ポンプ場がつけられるのに先立って、左岸堤防を断ち割って断面調査が実施されています。

現在の大和川の堤防は、1704年に造られた堤防を、少しずつ大きくしたものです。そのことがわかる遺跡の発掘調査が2回行われています。

1988年に藤井寺市小山の左岸堤防で、小山雨水ポンプ場建設に伴う発掘調査が実施されています。大和川堤防の発掘調査としては最初のもので、断面だけでなく一部では平面調査も実施されました。

堤防断面の観察によって、均整のとれた台形断面のつけかえ当時の堤防（黒い土の部分）が確認されました。堤防の基部幅（根置）が21.5m、上面幅（馬踏）が5.4m、高さ3.6mでした。

大和川河川敷と南河内の動植物

大和川^{かせんしき}河川敷で見られる植物

大和川では在来種^{ざいらいしゆ}のクズ・カナムグラ・ヤブガラシ^{せい}のつる性の植物が繁茂^{はんも}します。外来種のアレチウリもつる性^みで実にはとげがあり繁茂すると小動物がすめなくなります。河川敷^{かせんしき}の生態系^{せいたいけい}を破壊^{はかい}します。四季を通じて植物の種^{しゆ}も変わっていくので観察してみると楽しいです。

大和川にはアシの群落^{ぐんらく}がなく、セイタカヨシが主で、築留^{つきどめ}の対岸に外来種^{がいらいしゆ}のセイバンモロコシの群落が見られます。



マルバアサガオとアレチウリのつぼみ



アレチウリの実

大和川で見られる主な外来種の植物

春	セイヨウカラシナ・ハルジオン・セイヨウタンポポ
夏	ヒメジョオン・オオブタクサ・ヘラオオバコ・マルバルコウ・マメアサガオ・シロツメグサ・アレチヌスビトハギ・ナヨクサフジ・ヨウシュヤマゴボウ・ムラサキツユクサ
秋	セイバンモロコシ・セイタカアワダチソウ・アメリカセンダングサ・オオオナモミ・アレチウリ・ヒガンバナ

大和川の河川敷で昆虫を観察しよう

大和川の河川敷には多くの昆虫^{せいそく}が生息していますが、夏から秋にかけてはトノサマバッタ・エンマコオロギ・キリギリスが多く見られます。

また、在来種のオンブバッタが今まで多く生息していましたがここ数年の間に外来種のアカハ



アカハネオンブバッタの後ろ翅



羽曳野市の翠鳥園遺跡でアカハネオンブバッタ

ネオンブバッタが侵入して在来種のオンブバッタを駆逐^{くちく}しています。後ろ翅^{はね}を見ないと区別が付きません。

藤井寺・羽曳野・松原コースで目につく樹木

古墳・神社が多くあり、特に神社には、クスノキ・ムクノキの大きな木が見られます。古墳の森にはブナ科のアラカシ・スダジイ・コジイ・ウバメガシ・クスギが多く見られます。

クスノキ・ムクノキを観察しよう

クスノキ クスノキ科の常緑高木で、高さ 20m 以上になり幹周囲 10m 以上の巨樹になります。葉は互生し葉身には 3 脈が目立ちつやがあります。葉柄は長く、春に新葉が展開すると紅葉して落葉。花期は 5～6 月。果実は 10～11 月に黒紫色に熟し、種子は球形。本州（関東南部以西）、四国、九州、朝鮮（済州島）、中国中南部に分布しますが、日本のクスノキは史前帰化植物です。神社林として植えられ、ご神木として人々の信仰の対象になっています。

コース内では澤田八幡神社・道明寺天満宮・陵南の森・川辺八幡神社に巨樹があります。川辺八幡神社のクスノキは大阪市の保存樹（指定：60 号、高さ：20.0m、幹回り 4.2m）になっていて黒龍が宿っていると言われ信仰の対象にもなっています。

クスノキは全体から樟腦の香りがあります。枝葉を蒸留して得られる無色透明の固体が樟腦で、防虫剤や医療品に使われます。

ムクノキ アサ科の落葉高木で、高さ 15～20m、直径 1m。葉は互生し葉身は長楕円形で、両面とも短い毛がありざらつきます。花期は 4～5 月。葉の展開と同時に開花します。雄花は新枝の下部に集まってつき、雌花上部の葉のわきに 1～2 個つきます。果実は球形で紫黒色に成熟し、外果皮は甘くて美味しいです。本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄、中国、台湾、東南アジアに分布します。神社の境内に植栽されることが多いです。

コースでは川辺八幡神社のムクノキの巨樹 2 本が大阪市の保存樹（指定：61 号、高さ：14.0m、幹回り 1.27m）、（指定：62 号、高さ：19.0m、幹回り 2.49m）があります。

材は強いので昔はてんびん棒やバットなどに利用され、葉は漆器の木地やベツコウの研磨に使われました。



澤田八幡神社のクスノキ



川辺八幡神社のムクノキ



ムクノキの実

大乗川のきりかえと石川

大乗川は現在竹内街道の北側、碓井で石川に合流しています。大乗川は、大和川つけかえの時に、新しい大和川や落堀川に大量の水が流れこまないように、東へきりかえて石川に合流させています。近鉄線古市駅のすぐ南の長野線の鉄橋の下で川が曲がっているのがわかります。

元の川は自然の地形に沿って、菅田御廟山古墳（応神陵）の西側などを通り北へ流れていました。その跡が大水川の名で細く流れ、藤井寺市西大井で落堀川に注いでいます。落堀川には大雨が降ると大量の水が押し寄せるため、小山雨水ポンプ場を造って強制的に雨水を排出して氾濫を防いでいます。大水川沿いの桜並木が評判です。



石川に合流する大乗川 対岸の煙突はクリーンセンター



左手が古市駅 長野線鉄橋下で川が曲がっている
府道170号線より見下ろして撮影



■元の川
■つけかえ後の川

石川河川公園と石川の市民活動

一級河川石川に沿った細長い公園で、駒ヶ谷にピクニック広場や管理事務所があり、展示やイベント会場となっています。1987年に始まった石川あすかプランに、市民の願いや声を反映する活動がスタートし、2003年に石川自然クラブが発足。公園指定管理者と連携して、自然保全のための除草管理、希少種の保護、イベント開催などに取り組んでいます。2012年には南河内ほわ〜っと流域ネットワークが発足。市民団体や行政・石川河川公園と長野公園の指定管理者もつながっています。

希少種のミゾコウジュ（シソ科）やカヤネズミ（日本で一番小さなネズミ）を守る取り組みなどが続いています。

伏流水が水源の羽曳野市営水道

1928年旧古市村の水道事業が始まりで、今も左岸の石川浄水場が石川の伏流水、右岸の壺井浄水場は深井戸の水を使っています。現在は大阪広域水道企業団から淀川の水が配水されていますがほぼ半分は自己水源でまかなっています。

※ 伏流水……川の水が地下を流れているものです。砂で浄化されています。



石川“e”公園ネット2013年発行
「石川河川公園3年間の運営管理」より

石川の堰と魚道

石川はアユが上る清流として有名でしたが、現在はアユが上っていません。富田林高校科学部が12kmの川にある12の堰を調べ、魚道の無い堰が多いことがわかりました。そこで、大和川にもっとも近い松井井堰の3mの堰に魚道をつくる実験に取り組みました。2015年に富田林土木事務所や水利組合などの協力で、仮の魚道を設置。2016年には土嚢を積んで、魚が上りやすい傾斜を作りました。出水などのため苦労しましたが、アユの遡上を確かめています。

大阪府は魚道の必要性をみとめ、高校生たちが発案した魚道実現の計画がすすんでいましたが、台風の緊急対策が優先され、止まっているようです。いきものでにぎわう川づくりがすすむことを願います。



「銀屋」1989年羽曳野市役所発行
「はびきのを訪ねる」より



臥龍橋の東南に立つ道標

富田林高生 堰に魚道

河内長野市の山部郡から藤井市市内大和川に合流する石川は、1960年代でも上流にも多くのアユがいたと言われる。しかし、高度経済成長で、大和川の水質が花し、石川に遡上するアユはつしかなを減らした。ところが、環境意識の高まりで、大和川の水質は徐々に改善。近年はアユの遡上や稚魚が確認されるようになった。2011年以降、生徒たちは顧問の小川也教諭の指導でアユの生態調査を実施。石川の下流に遡上し、堰と合流したものの、大和川と合流する約1.8km上流の羽曳野、柏原市市場で、農業用水確保のために設置された高紙差約3mの「松井井堰」が、石川流の遡上を阻んでいることがわかった。石川の上流には、自らのちの高校が、学校の近くの堰に、思い付いたのが魚道の建設だ。富田林高校の堰の上流に、仮で設置する塩化ニール製のパイプ(長さ20m、直径10cm)3本。一本はそのまま、

試験遡上成功「調査続けたい」

水を流し、強い流れに逆らって泳ぐアユを利用して、近くには泳ぐためのパイプを、内部に水を流れるための内部パイプを、このアユを遡上させる計画だ。川を貫通する富田林土木事務所からは作業を開始。9日には付近を泳がせアユが上流に向かおうとパイプ内を通すのを確認した。アユの遡上は6月初旬で、生徒たちは今後、上流まで、アユを遡上させ、堰を渡る計画だ。中心入君(16)は、石川を再びアユが遡上する川にしたいと、調査を続けたいと話している。

アユ泳ぐ 石川再び



石川の名橋 臥龍橋と玉手橋

奈良に続く竹内街道が西から石川を渡る手前に大乘橋、続いて臥龍橋、川沿いに南への街道が東へ曲がる所に「日本最初大黒天」の大きな道標が立っています。堺の神南辺道心が発起人になって幕末に立てたものです。

臥龍橋の辺りは船着き場で、剣先船や河内木綿関係者が住み、宿場町でもありました。航海の安全を守る金刀比羅神社もあります。剣先船の船板を堰に再利用した両替商「銀屋」の建物は見事でしたが、2001年に惜しまれながら解体されました。大乘川と合流した少し下流に架かる国の登録有形文化財の玉手橋は、1928年にできたおしゃれな吊り橋で、歩行者・自転車専用です。かつて柏原市の玉手山遊園地に行くための橋でしたが、現在は玉手山公園ふれあいパークとなっています。周辺には玉手山古墳群や大坂夏の陣の古戦場などの見学スポットでもあります。



玉手橋 東・右岸流から
対岸に道明寺天満宮の森が見える

修羅のふるさと 道明寺

古墳と共生してきた地域

ふるいちこふんぐん、もす古市古墳群は、百舌鳥古墳群とともに古墳が巨大化した5世紀を中心とした時期に築かれています。大中小の古墳があり、「倭の五王」の時代の天皇陵とされるものや地域の豪族の墓まで45基残されています。登れる古墳も多く、土師の里駅前の鍋塚古墳や三つ塚古墳西の助太山古墳、古室の古室山古墳などがおすすめです。



三つ塚古墳のうち西側の助太山古墳の桜

巨大古墳の石を運んだ修羅を発見



マンションの場所で修羅を発見 2つの古墳の間の濠跡

石室や石棺などの石材は兵庫県高砂市や熊本県阿蘇地方から運ばれています。

瀬戸内海や大和川などの河川を船で運ばれた後、陸地を移動させるには相当の人手と知恵や道具が必要だったことでしょう。

1978年、三つ塚古墳の濠から古代の運搬具が発見されました。二股になった巨木を加工したもので、インド神話で帝釈天に組み伏せられた阿修羅にちなんで、大きな石(大石)を運ぶ木ゾリを「修羅」と呼びました。

見つかった大小2基の修羅とテコ棒1本は、周濠の底の穴の中にきちんと納められていたそうです。保存処理された大修羅とテコ棒は大阪府立近つ飛鳥博物館、小修羅は藤井寺市立図書館に展示され、重要文化財になっています。

道明寺天満宮に展示されている復元「修羅」もすばらしい



道明寺天満宮の復元修羅（レプリカ）拝殿の左手奥

修羅が発見された年、檜の木で精巧な復元模型が造られ、石川の河川敷で運搬実験が行われました。10tの石を載せ、下に丸太を敷いて300人の中学生と市民が「エイシャ、エイシャ」と引っ張り、45秒で15m動きました。

法隆寺の宮大工の西岡常一さんらが造られたこの時の模型が、道明寺天満宮に展示されています。近寄って見学することができます。

道明寺と道明寺天満宮



道明寺天満宮正面の階段



東側に復元されている登り窯↑



天満宮の南・土師ノ里南窯跡群1号窯 (写真 藤井寺市教委提供)

この一帯は「土師の里」と呼ばれ、古墳築造や埴輪づくりなど土木技術に長けた土師氏の本拠地です。菅原道真もその一族で、大宰府に流される時、特別に叔母のいる道明寺を訪ねたそうです。国宝の十一面観世音菩薩立像は道真の手彫りと伝えられています。

道明寺天満宮は土師社が始まりで、道真の叔母に託された青白磁円硯や銀装革帯などの遺品が残され、国宝となっています。梅の名所として有名で、1月25日には木彫りのうそ鳥が入った袋を交換する「うそかえ祭り」でにぎわいます。

昭和の初めまで、3月25日の「ハルゴト」には、堺から長尾街道を徒歩でお参りする人々がたくさんいました。



道真の遺品を見学できる宝物館



道明寺天満宮始まりの土師社

藤井寺市立図書館の修羅展示ホール

展示室には、小修羅の実物とともに、修羅を使って大きな石を運ぶ様子のジオラマや修羅の発見やレプリカの製作・運搬実験の様子などの資料も展示されています。



藤井寺市立図書館1階展示室の小修羅

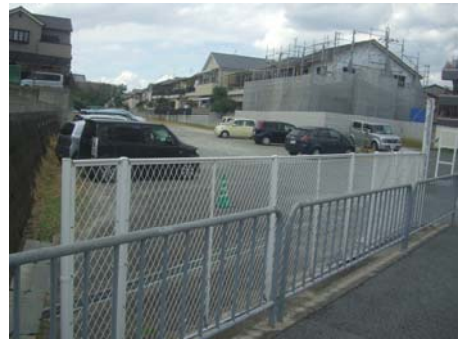


修羅を使った古墳づくりの様子の復元ジオラマの一部

古市大溝と翠鳥園遺跡公園

古代の水路……古市大溝

古市大溝^{ふるいちおおみぞ}の発見は1964年で、富田林^{きし}の喜志^{きし}付近の石川から取水し、羽曳野市内を北西に流れ、島泉^{しまいずみ}付近の東除川まで総延長約15kmの人工水路です。幅20m深さ4.4mもありました。つくられた時期は5世紀末から7世紀までの諸説があり、目的についても議論が続いてきました。



イズミヤ西に残る古市大溝の跡



南東上空から見た古市大溝の跡 羽曳野市の現地の説明板より

6世紀につくられた古墳を壊して流路を開削している所もあり、古墳造りのための運河ではなく、灌漑用の水路だという説が有力です。事業規模が大きく、古墳築造の時代以後、政治的に安定した律令体制下の可能性が高いとされています。

大阪羽曳野線と竹内街道の交差点北西の歩道に説明板があります。その北側の駐車場のフェンスから大溝の規模がよくわかります。

二上山の石を加工した旧石器人のアトリエ

1992年、羽曳野市の中心地の府営住宅の建てかえの際に、約2万年前と思われる石器づくりの跡が見つかり、翠鳥園遺跡と呼ばれています。

材料のサヌカイトという石は約5Kmも離れた二上山^{ふたかみさん}のふもとで採取^{さいしゆ}できるものです。古代人が山道をひらき、石川も渡ってこの地まで運んだのでしょう。最古の「国道」と言われる後の竹内街道^{たけのうちかいどう}がすぐ南にあり、大昔に石や石器が行き交った道が偲ばれます。

旧石器時代の人々は石器を使って鋸^{やじり}や包丁として使い、獲物^{えもの}をしとめたり、獣^{けもの}の皮をはいたり肉を料理したりしたことでしょう。



翠鳥園遺跡公園入口 石器をイメージしたモニュメント

羽曳野市が、学習展示施設や作業の立体模型、実物大の写真でアトリエを再現し、旧石器時代人の息吹が聞こえそうな魅力的な公園として開放されています。



2万年前の石器工場の跡
現地に保存されている様子を見学できます



翠鳥園遺跡で発掘されたサヌカイトの石器やかみけら
(写真: 羽曳野市教育委員会提供)

陵南の森と「雄略天皇陵」

陵南の森は、「雄略天皇陵」の南にある羽曳野市立の公民館や図書館、歴史資料館などのある文化センターです。

雄略天皇陵は、「倭の五王」のひとりとされる天皇の陵墓なのに小さな円墳では似合わないという理由で、1885（明治 18）年に近くの方墳・平塚古墳をくっつけて前方後円墳らしくしたそうです。今も濠をはさみ円墳と方墳が 100m も離れています。

歴史資料室には、西浦小学校から発掘された重要文化財の銅鐸をはじめ、羽曳野市内で見つかった遺跡や文化財が紹介されています。



重要文化財の西浦銅鐸（レプリカ）が
展示されている歴史資料室



市内の遺跡から見つかった土馬や土製のお面など
お面は奈良時代のものだそうです

葛井寺とアイセルシュラホール

藤の名所 葛井寺

葛井寺は、古代氏族葛井氏の氏寺として、7世紀後半の白鳳期に建立されています。葛井氏は、渡来人で百済の王族・王仁氏の子孫と伝えられ、新しい文化を伝えた実績が認められて、広い土地を与えられてお寺を建てたと伝えられています。

本尊は、行基が開眼法要をした、1043 本の手を持つ国宝の千手観音像です。大阪府で唯一の天平仏で、毎月 18 日に御開帳されます。西国三十三箇所札所で、春には藤の花が咲きます。藤井寺駅前から続く庶民的な商店街に面して重要文化財の四脚門（西門）があります。

11 世紀に、藤井氏が荒廃していた寺の大修理をしたため「藤井寺」とも書かれ、地名は藤井寺となっています。

藤井寺は遣唐使井真成の出身地

2004 年、「姓は井、字は真成、国は日本と号す。生まれつき優秀で、国命で遠く唐にやってきて、一生懸命努力した。学問を修め、正式な官僚として朝廷に仕え、活躍ぶりは抜きんでていた。……（現代文訳）」という書き出しで始まる墓碑が、中国の西安で見つかりました。

「36 歳で亡くなった。玄宗皇帝がたいへん残念に思い特別な扱いで埋葬したが、魂は故郷に帰ることを願っています」とも書かれていました。

阿倍仲麻呂と同じ 717 年に遣唐使船で派遣されたとみられ、

帰国を目前にした 734 年に亡くなりました。この一帯を本拠地とする井上一族で外交官の任務につく人が多かったことから、井真成の出身地は今の藤井寺市と考えられました。

藤井寺市では、「井真成市民研究会」がつくられ、万葉衣装で平城遷都1300年事業（2010 年）を盛り上げるなど、市の内外で活躍しました。

葛井寺の山門の左手に、真成を顕彰する木碑が立てられています。



8月9日千日参りの南門



井真成墓碑 ふたの拓本。アイセルシュラホールに展示コーナーがあります



藤井寺市のゆるキャラ まなりくん

アイセルシュラホールで出会う昔の藤井寺

船が街の上にかかっているようなユニークな建物のホールは、藤井寺市の生涯学習センターで、1994年に完成しました。古代船の埴輪と修羅をモチーフにしているそうです。

2階には、歴史展示ゾーンがあり、旧石器から古代の歴史を学べます。津堂城山古墳の水鳥形埴輪や鉄器を埋めた西墓山古墳の遺構を切り取ってそのままの状態で展示しているなど、いくつもの本物に出会えます。

(アイセルは活動・情報・相談・交流・学習の英語の頭文字だそうです)



岡古墳から出土した日本最大級の船形埴輪 河内湾を航海したか？
(写真:藤井寺市教委提供)



アイセルシュラホール正面 葛井寺南門からまっすぐ南へ



ほんものの津堂城山古墳の水鳥形埴輪。大きいものは1m。くちばしや水かきもリアル。全国の水鳥形埴輪の中でも最古最大で、重要文化財 (写真:藤井寺市教委提供)

中世の城跡でもある津堂城山古墳

4世紀後半、大王陵が大和から河内に移った最初の古墳で、墳丘の長さが210mの前方後円墳。二重の濠をめぐらせ、石でおおわれた墳丘や堤を多彩な形象埴輪で飾りたてた古墳だったとわかっています。巨大な石棺や石室は大王陵にふさわしいですが、天皇陵とされていないので、市民が立ち入って親しめる貴重な古墳です。

濠に花しょうぶ園や草花園があり、大和川に近い北側にガイダンス施設があります。(月・火曜休館)



津堂城山古墳ガイダンス施設「まほらしろやま」前に展示されている本物の竜山石の石槨 後ろの石室はレプリカ。とても大きい

つけかえで移動した川辺八幡神社と古市街道

大和川の右岸堤防の下、川辺小学校の東側に川辺八幡神社^{かわなべはちまん}があります。川辺の地名は、元の東除川のそばにあったことによります。大和川つけかえによって、神社境内の多くが川床になり移動しています。樹齢^{じゅれい}300年以上といわれるご神木^{ごしんぼく}のクスノキは、その頃のものでしょう。

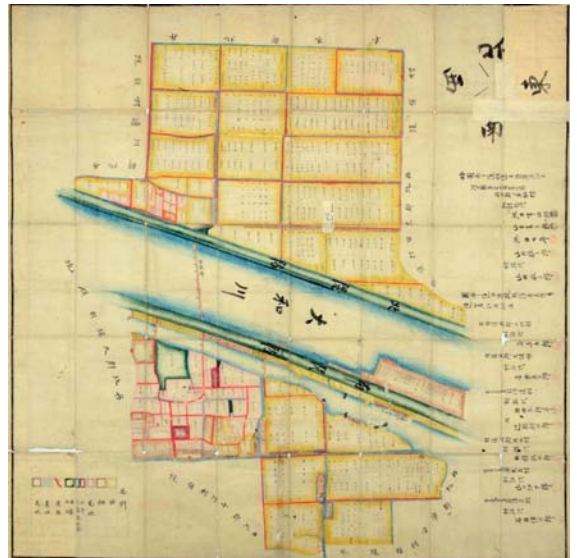
大阪市平野区長吉川辺^{ひらのくながよしかわなべ}は、今も大和川の南側に細長く伸びています。9月14日秋祭りの前夜には神輿^{みこし}を大和川に担ぎ入れ、盛大な打ち上げ花火が川面を照らします。



川辺神社と秋祭りの花火と
神輿の「足洗い」神事
撮影 金勝男さん

河内と大坂を結んだ古市街道

松原市内の民家で、江戸時代の若林村を描いた絵図が4枚見つかりました。1714年の絵図によれば、大和川つけかえで分断された川北は、村の出郷^{でこう}で田畑のみでした。1868（明治元）年の絵図では、大和川が洪水で田畑が荒所になったことを示し、大和川と南の落堀川^{のかよぼし}に野通橋がありました。北側の田畑の耕作のために通る木橋で、現在の落堀川にある中橋が野通橋を継いだものと考えられています。1770年代ぐらいの絵図では、「大坂より大和への往還^{おうかん}」として古市街道が描かれています。古市街道は平野^{ひらの}から出て川辺渡しを船で渡り、長尾街道や竹内街道と結んで大和に至っていました。時代によって、若林神社^{ほんりょうじ}や本了寺そばを通る場合と小川の深居神社そばを通る場合があったようです。



1878年 若林村絵図 村のまん中を川が通る
(松原市所蔵 写真:松原市民ふるさとびあプラザ提供)

松原の歴史を知る会によって、両方に案内板が設置されています。

『大和川筋図巻』(堺市博物館蔵年代不詳 1770
年以降)には、川^{かわ}辺にも若林^{わかばやし}にも野通橋^{ののちやうばし}が描か
れています。



小川の深居神社 鳥居の左に古市街道の案内板 応神天皇を祭神
とし、公園内に歯神さんの大きな石がある



若林 落堀川の中橋と日蓮聖人500年遠忌の題目石 ここも本寺境内
内だったが水害で荒廃し幕末に再興。現在の本丁寺は100m南に立地。
右は大和川堤防に沿った道で古市街道の案内板がある。

川をまたぐ高速道路のために遷座した大堀八幡

川辺八幡神社の対岸の大和川と落堀川にはさまれた場
所^{おおほりはちまん}に大堀八幡神社がありました。川辺の渡しのすぐ前にあ
り、村人の信仰を集めたことでしょう。

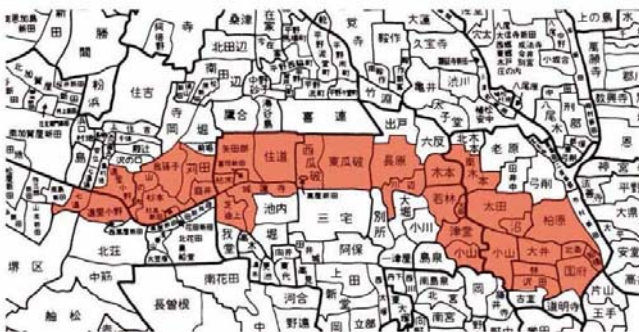
中央環状線と近畿自動車道のジャンクションが建設さ
れ、大堀八幡神社は2015年に恵我小学校の南、平野高校
の東に移動されています。



大堀4丁目にあった遷座前の大堀八幡神社 2010年

大和川の南北に分かれた村

今も川の兩岸にある藤井寺市・大阪市・松原市・八尾市



「1703年大和川つけかえ決定に迷惑の訴えをした村」
(松原市立ふるさとびあプラザ作成)



現在の和川と市の境 赤はつけかえ迷惑を訴えた村があった地域
※松原市若林町だった大和川北側の北若林は、1964年に八尾市に編入されています

東除川と落堀川 新田の開発

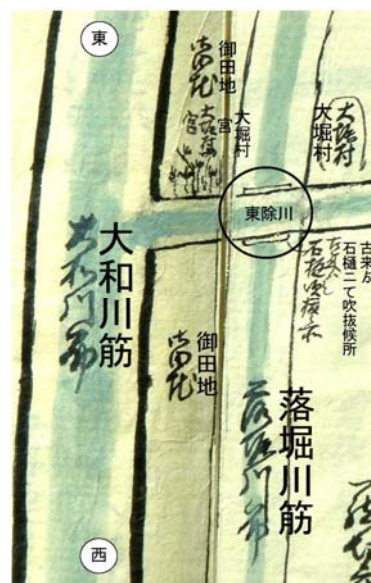
つけかえ迷惑を訴えた村も工事に協力

大和川つけかえの訴えによって幕府が検分（けんぶん 実地検査）をすると、迷惑する村々からも大坂町奉行への訴えが出されました。田畑が川底になる・南からの川が新川で堰き止められて耕作も居住もできなくなる・北側の村は水不足になる・6筋の街道が途切れる・剣先船が通れなくなる・港に土砂がたまるなどを理由にあげていました。

しかし、1703年に幕府はつけかえを決断。城連寺村など、つけかえに反対した人々も、集められた人夫の民宿をし、現金収入が入り協力させられました。人夫は1日に約1万人、日給約5000円（約200文）でした。新田にする権利金は平均して1反につき3両3分（約75万円）でした。幕府はこの権利金の収入で、支出金約37,000両を回収しました。

大和川つけかえ 12年でこわれた東除川の樋門

大和川つけかえによって、南から北へ流れていた川はせきとめられるため、落堀川をつくって流しこみ、下流で水位が合った所で大和川と合流させました。落堀川は幅27.3m深さ1.8mで計画されました。東除川との合流点では、石樋をつくり、上に東除川、下に落堀川が流れるように工夫しました。しかし、1716年6月の洪水で石樋が流れてしまいました。再建するには費用がかさむので、東除川と落堀川を合流させて大和川に流しこみました。



『城連寺村記録』より「橋樋部分絵図」

○部分が橋樋箇所。上を流れている川が東除川。1716年の流失前の状況

落堀川跡や大和川の中にもひろがった新田開発

そのため落堀川の水量がへり、前のような川幅が要らなくなり、川幅17間（約30m）を4間（約7m）にして埋め立てて田畑にしました。1720年に入札し、大坂の商人万屋善兵衛が全ての川筋の開拓権を落札しました。

城連寺村境では、土地がたいへん低く水つかりが激しいので、落堀川の川幅を大きくとりました。しかしたびたび水につかり、「水漬く漬く城連寺 共に流れる 芝 油上」という言い伝えが残されています。

その後、不要になった池の跡が次々に開発され、大雨の時以外は水が来ない大和川の高堤の内側にも大和川中流作場（やまとがわなかりゆうさくば 河川敷などの田畑）もつくられました。

東除川の大和川合流点移動は 1984 年

大和川上流の開発がすすんだ現代、大和川と東除川の落差があらためて大きな問題になりました。

1982 年水害の後、増水時の対策として、大堀から西へ放水路を延長しています。

その少し下流に高野大橋が架かっています。1954 年以前は 200m 東の中高野街道に架かっていました。



正面が 1984 年に大阪市平野区瓜破で大和川に合流させた東除川 1994 年 5 月 高野大橋北詰付近から撮影 田島行則さん



高野大橋の説明板 写真に元の橋の土台が写り、中高野街道を結んでいたことがわかる

橋の南北のたもとに、説明版があり、古い写真には、大和川堤防の内側にも耕作地が写っています。

大井水みらいセンターと小山雨水ポンプ場 浸水を防ぎ水をきれいに

大井水みらいセンターは 1974 年に事業着手、1986 年に供用開始されました。南河内等 9 市町村の下水処理をする大きな施設です。処理場南側にはふれあい緑地があり、処理水のせせらぎにも大きな鯉がいます。屋上のふれあい広場では風揚げやボールで遊ぶ親子でにぎわいます。どちらも自由に利用できます。

南からの雨水の排水も大きな課題で、落堀川がよくあふれるので、強制的に排水するために 1988 年から小山、1999 年から北条で雨水ポンプ場が稼働しています。



大井水みらいセンター西側の桜並木 奥が落堀川との合流点
写真提供：藤井寺市秘書広報課



小山ポンプ場 大和川堤防から撮影
手前は落堀川 左が南からの水路

三宅と中高野街道

屯倉神社は平安時代942年の創建と伝えられ、菅原道真などを祭神とし、道真が九州に赴く際に腰かけたという神形石があります。地名の三宅の元の字が屯倉で、古墳時代に、大阪市東住吉区や堺市北区にかけてこの辺り一帯に依羅屯倉がありました。屯倉神社は、依羅三宅天満宮と言われた時期もありました。



2月 梅が咲き始めた屯倉神社の拝殿

屯倉は大和王権の直轄領で、現在の大阪市住吉区苅田や庭井、堺市北区常磐町などを含む広大な依羅池（依網池）を造るなど、大王自らの力で開発・経営された重要な穀倉地帯だったようです。

江戸時代、この地域では綿作りが盛んで、「三宅木綿」と呼ばれていました。神社西の道が中高野街道で、木綿が集められた平野にも通じています。南の長尾街道との交点は阿保茶屋で、大和川つけかえの前もその後も人々が行き交い、送り、迎える場所となっていたようです。

瓜破村を分断された人々は中高野街道に船の渡し場をつくり、1873年（明治6）に初めて橋が架けられました。高野大橋は1954年に200m下流に架けかえられていますが、橋のたもとに案内板が付けられています。



阿保5丁目の一里塚跡（平野から4km）

松原の地名起源の柴籬神社

上田の柴籬神社は、18代反正天皇の丹比柴籬宮跡と言われ、「松生ひし丹比の松原」と呼ばれたことが、松原市の名前の由来ですが、今では松並木のおもかげはありません。

井原西鶴が1679年に訪れており、

「柴籬宮 むくけ（種）うへてゆふ柴垣の都哉」の句碑が境内に建てられています。

反正天皇の別名が

瑞歯別命であり、末社の歯神社で8月8日午後8時8分に歯の祭典がもたれ、歯科関係者など市民の信仰を集めています。



柴籬神社拝殿



歯神社「歯 磨き面」

松原市民ふるさとぴあプラザで学ぼう

文化交流センター……………松原市民ふるさとぴあプラザ

柴籬神社の北側の文化施設に郷土資料館があります。2013 年度特別展「街道展—松原の往来案内—」などの図録は、今も近隣地域の皆さんに活用されています。わかりやすいマップとイラストが満載の松原市文化財情報誌「たじひのだより」（松原市教育委員会文化財課発行）や、松原市立図書館ホームページで閲覧できる「松原歴史ウォーク」（松原市文化財保護審議会委員 西田孝司さん著）もたいへん参考になります。



2018 年秋の大和川つけかえ企画展

大和川つけかえと松原の資料が充実

この地域は、大和川つけかえで村が分断されるなどの不利益や不自由が多く、つけかえ迷惑の

長谷川家文書より

大和川付替えによって潰れ地になったところの耕作者は代地をいただきましたが、遠方のため通作には不向きで、費え多く勝手が悪いので譲渡するものもありました。この文書と同じものが「城連寺村記録」にもあります。

訴えや、つけかえ後の問題が次々に起こります。城連寺村は 66.1%、若林村は 47.9% など村域が川底になっています。これらの村の訴えの文書や絵図を収集し、記録と研究、わかりやすい展示と資料が評判です。毎年秋に、「新田開発と松原」「狭山池と松原」「新川筋とその利用」などをテーマに特別展がもたれ、解説リーフレットは貴重な学習資料になっています。

（同上）

城連寺村の普請工事は 4 月 26 日から始まりました。麦作 34 町 5 反のうち、実った麦 5 町を急いでかり入れ、5 月まで、青麦もだんだんかり入れていきましたが、10 町あまりの麦が人足の足場となり、堤防や、ほりあげられた土山の下となってしまう。役人に、麦の刈り取りまで待つてほしいと申し上げても、役人は工事を急ぐばかりで聞き届けてもらえません。近くの村々の人々も工事にかり出され、手助けさえ頼めず、とうとう 10 町あまりの麦畑が堤の下敷きとなってしまいました。なんとあわれなことでしょう。書き記すこともできないほどです。

旧家などから寄託された古文書を保存・研究。大和川つけかえとその後の地域のくらしや願いを学ぶ大事な資料になっています。やさしい読み下し文やパネルにして公開しています。



布忍神社と西除川のつけかえ

布忍は古代からの先進地



布忍神社 西除川に面した鳥居と右に本殿



西除川遊歩道 布忍八景広場でレプリカを展示

布忍は、^{しもこうやかいどう}下高野街道と^{ながお}長尾街道の交点にあり、交通の要衝として栄えました。1705 年作の絵と漢詩・狂歌・俳諧・廻文で綴る「布忍八景」に、大和川つけかえの頃のくらしや風景が描かれています。「布忍野の綿の盛りやけふの月（安知）」など、すでにワタ作りが盛んだったことがわかります。



大林寺の十一面観音像



更池村惣井戸

「布忍八景」の^{へんがく}扁額は庄屋だった民家で発見され、布忍神社の^{ごくさいしよく}極彩色の^{はいでん}拝殿に架けられています。

布忍神社は近年「恋みくじ」が評判で、境内は若い女性でにぎわっています。西除川対岸に十一面観音像を伝える大林寺（^{けいだい}融通念仏宗）があります。布忍橋そばに 1796 年の井筒が残る^{さらいけむらういど}更池村惣井戸は、元は西除川河川敷にあり、街道を行き交う人々の^{かわ}渴きをいやしたことでしょう。

高木橋から 西除川がまがっている

西除川は下高野街道に沿って北へ流れていましたが、1704 年大和川つけかえの時に、高さをそろえてうまく流れこませるために高木で西へつけかえ、堺の浅香で新大和川に合流させています。

下高野街道の西側に沿った元の川筋をたどると、^{あまみこ}阿麻美許曾神社に至ります。



高木橋から北西方向。右手が元の川すじ。川の中に、薄層流浄化法による河川浄化のための礫やブロックが置かれている

下高野街道と「あまぎし」と天道の渡し

下高野街道は狭山池の東で中高野街道と合流し、高野山に通じる古い道です。大和川つけかえの前には、布忍から下流（北）は西除川の右岸に沿った道だったようです。

大和川つけかえ後、左岸の阿麻美許曾神社側に「天岸の渡し」がありました。右岸にはかつて天道川と呼んでいた西除川にちなんで「天道の渡し」がありました。下高野街道の渡し場で、剣先船によって大坂からは金肥といわれる油粕や干鰯などが運ばれ、年貢米などが大坂に積



下高野橋全景 阿麻美許曾神社の森が見える
神社の下が「天岸の渡し」 その対岸が「天道の渡し」だった

住民から嵩上げの要望が寄せられています。

阿麻美許曾神社は矢田や松原市天美地区の氏神で、現在も境内や南に伸びる参道が大阪市東住吉区矢田7丁目となっています。

桜並木と「ハルゴト」の復活



下高野橋右岸の大和川堤防の桜並木と高校生たち

み出されていました。下高野街道 天美東8丁目の道標

天美東8丁目の道標には、「右志き山八尾ひらの三宅村 左大坂天王寺あまぎし」と刻まれています。

天道の渡しは榎の木の下に茶店がありました。

下高野橋は 1898（明治 31）年ごろに架けられました。現在の下高野橋は、2002 年に元の場所から数 10m 東に架けられています。元の下高野橋は神社のすぐ西の街道から続いていました。橋があった場所だけ大和川の堤防が低いままで、

右岸の近鉄鉄橋から行基大橋に至る堤防の桜並木は、1982 年に子ども会が苗木を植え、学校への行き帰りに大和川の水をやって育てたものです。今は花見頃に模擬店も出てライトアップされ、夜桜見物で賑わいます。

毎年、矢田の4つの小学校の創立記念日の4月16日前後に、子ども達は堤防や川原で土手すべり、大縄跳びやマラソンなどをし、江戸時代から続いていた「ハルゴト」を復活させています。

阿麻美許曾神社と行基伝説

とらいじん きょてん あまみ
渡来人の拠点だった天美

下高野橋南西に阿麻美許曾神社があります。大同年間（806～809）の創建と伝えられ、古代の氏族の系譜が書かれている新撰姓氏録には「依羅連は百済国人である素弥志夜麻美乃君の後なり」とあり、夜麻美から阿麻美となり、「天美」の地名の基となったと考えられます。吉田東伍の地名辞典には「いま天美村これなり、摂津国住吉郡大依羅の分郷なり」とあります。

「許曾」は朝鮮の新羅の初代王の赫居世に由来する言葉で「様」という意味です。古代の朝鮮渡来人の開拓の拠点でした。

拝殿前の狛犬の台石に「天見山」という寺の山号が刻まれています。平安時代末期からの神仏習合思想により、真言宗の神宮寺があった証拠ですが、明治初期の廃仏毀釈により取壊されたといわれています。

行基さんを慕った村人たち

行基（648～749）は、堺市西区の家原寺に百済からの渡来人の子として生まれ、道昭から法相宗と土木技術などを学びました。723年の三世一身の法により、新しく池や溝をつくって田畑に開墾した者に、子・孫・曾孫まで開墾地の私有を認め、すでにある池や溝を修理して田畑を再生した者に一代限りの私有を認めました。そのため、豪族たちは行基の下に集まった優婆塞という技術集団に池や溝づくりを頼んだのです。

地域では「北山、南山といわれる小山を崩して沼地を埋めて田にし、一部は行基池にし、火葬場を設けた。火葬のために枯木を集めさせたので枯木村の名が生まれ、今も続く山墓地がつくられた」と伝えられています。山墓地には、行基没後千年を記念して建てられた「南無行基大菩薩」の碑が、手洗場の壁面に残されています。（※ 28 ページの地図参照）

阿麻美許曾神社に 1956 年に建てられた「行基菩薩安住之地」の碑があります。行基がこの地に住んだ記録は無く、行基を慕う人々が建立したものと思われます。

新川に沈み、移転後も水害で苦しんだ城連寺村のお寺

天美北5丁目の最勝寺に「長谷山 安明寺縁起」の碑があります。碑文には、1385 年城連寺左衛門安明が本堂や三重の塔のあるお寺を建立。大和川の川敷となったために移転して再建したが、1716 年の大水害以後度重なる被害で廃絶。後に城連寺村庄屋長谷川氏が最勝寺の一隅に安明寺を再建した……などと伝えています。



楠の大樹におおわれた阿麻美許曾神社



行基安住之地の碑

丹北郡の大庄屋吉村家と中山家

1705 年から幕末まで、秋元氏が河内国の丹北・丹南・八上3 郡の内 43 か村を支配しました。

現在の羽曳野・松原と八尾・堺・大阪狭山を含み、堺市北区長曾根に陣屋がありました。秋元氏は武蔵国川越藩から出羽国山形藩を経て上野国館林藩主となりました。秋元氏の大庄屋として、八上郡に中山氏、丹南郡に日置氏、丹北郡に吉村氏を任命し、庄屋たちを監督させていました。

旧国宝・国の重要文化財の吉村家

羽曳野市島泉の吉村家は織田信長の時代に武士をやめて移り住んで帰農しました。建物は1615 年大坂夏の陣の道明寺合戦の際に焼かれて再建しています。1950 年代に解体復元修理、2017～18 年にも保存修理をし、吉村家住宅保存会が春・秋の公開事業に取り組んでいます。

1937 年、民家では最初の国宝に指定され、文化財保護法ができた1950 年に国の重要文化財となりました。江戸時代の格式ある農家の典型とされ、庭園を含む1600 坪（約5300 m²）の敷地が残っています。土蔵や納屋・隠居部屋などは無くなっていますが、表通りの長屋門や蔵・高札場・主屋・座敷などの主な部分が残し、主屋や座敷が江戸時代初期の状態を伝えています。奥座敷は数寄屋風書院造りで、室内意匠は最高水準と評価されています。



国宝住宅の碑と吉村家住宅主屋

剣先船の板材を壁に残す中山家

松原市別所の中山家は国の登録有形文化財で、1805 年築の主屋のほか、二階蔵・南蛮蔵・米蔵・瀬戸物蔵・炭蔵綿蔵・長屋門・長屋・裏門・塀など14 件の建造物が指定され、江戸時代後半の豪農の民家を代表する建物と評価されています。客人の宿泊所だった寮という別宅が、文人や学者を招いた文化サロンとなっていました。

文化財公開の機会には広い庭園を見学できます。道具蔵には近世の農具博物館とも言える貴重な民具が保存されています。

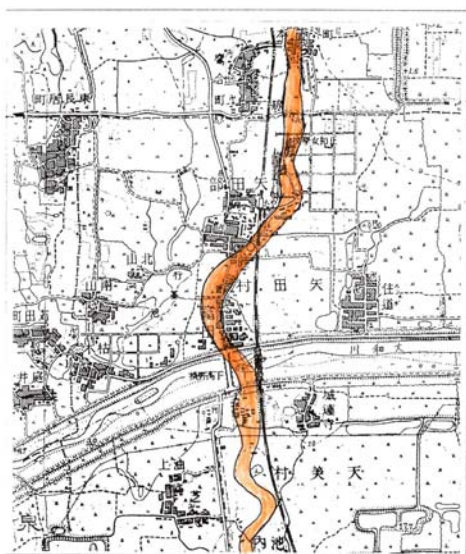
中山家所蔵文書に『大和川筋剣先船通用儀申渡覚』があり、旧大和川水系の使用や運賃などについて記されていました。積み荷は肥料や年貢米で、村明細帳には、村々から年貢米を大坂へ送るのに剣先船が使われていたことが記されています。



剣先船の船板を使った北門 別所バス停から見学できます

大和川のつけかえと矢田

大和川つけかえで川底にしずんだ村



1932(昭和7)年の天美～矢田周辺 北山・南山・行基池が記されている
■ 西除川の旧川筋

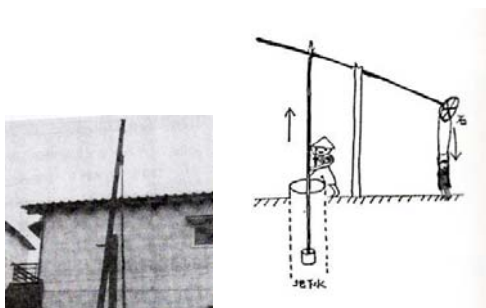
阿麻美許曾神社の東にあった^{かれ きむらりよう}枯木村領の集落は、田が少なく^{ぼくろう}博勞(運送)と^{ぎようしょう}行商で生計を立てていました。大和川つけかえ工事の時、約40戸の屋敷地が川底となり、大和川の北へ引越し、^{じょうれんじ}城連寺村領となりました。



下高野街道交差点の塞ノ神社

^{とんだしんでん}富田新田 といわれ、北の神さん(塞ノ神・道祖神)が旧村落の境でした。消防署から近鉄線高架をくぐって矢田駅東側への道路が少し高く、西除川の堤防だったことがわかります。

^{とんだしんでん}富田新田は西除川の跡地のため砂地で、田植えができず野菜作りが中心でした。少し日照りが続くと干上がり、つるべで井戸水をくんで^{かんがい}灌漑しました。1736年の村明細帳によると、城連寺村と同じぐらいの人口なのに、米の収穫量は10分の1で、青物行商や^{せったなおし}雪駄直し、牛馬による運送の仕事で現金収入を得ていました。下高野街道は馬街道とも呼ばれていました。



1990年代まで残っていたはねつるべ。水不足の時に、田畑にほった井戸から水をくんだ。棒の先に大きな石をつけ、反動で水の入ったつるべが上がる。中河内や和泉の農村にも多くあった



江戸時代の博勞を描いた図



せったなおし



あおももの行商



げたなおし

1982 年の大水害と総合治水対策

1982 年、大洪水に備えて今井戸川の水を排水するポンプ場をつくるために、大和川の堤防を約 60m 切り開いていました。8 月 1 日、3 日、台風 9 号と 10 号くずれの低気圧による豪雨で、大和川の水が逆流し、矢田 7 丁目、天美、堺市常磐町^{ときわちやう} 一帯が床上 140 cm の大水害となりました。王寺町などでも大きな被害がありました。

激甚災害指定で対策がすすむ

西除川の河道改修・放水路開削・狭山池治水ダム化^{か どうかいしゅう ほうすいろ かいきく さやまいけちすい}を内容に事業が決定。工事が一気にすすみ、1985 年 6 月西除川^{しょうすいろ} 捷水路（ショートカット）と今池処理場（後の水みらいセンター）が完成しました。今井戸川水系雨水ポンプ場もこの年 9 月に完成しました。

その後も集中豪雨があり、今井戸川の水位は急上昇しましたが、ポンプが稼働^{かどう}して徐々に水位が下がり、住民と行政の担当者が共に喜びあうことができました。

今池水みらいセンター東南の虹のひろば、屋上の風のひろばも市民に公開され、広いグラウンドはソフトボールチームなどがくじ引きするほどの人気です。

奈良県・大阪府・国と住民が力を合わせて

1960 年からの 20 年間で、森林は奈良で 7%、大阪で 10% 失われ、奈良 30%、大阪 36% の農地が宅地となり、奈良 89、大阪 146 の溜池^{ためいけ}が埋め立てられました。雨量のピークと川の水位のピークの差はどんどん縮まり^{ちぢ}、柏原で 1960 年 5.5 時間、1979 年 4.5 時間、1990 年 3.5 時間、2007 年 2.3 時間となっています。（大和川河川事務所発表）

当時の大阪府知事が上流の乱開発を理由に奈良の責任を問題にして対立しましたが、矢田の人々は^{ちぢ}大和川住民会議をつくって国や府と交渉し、知事同士の話し合い・大和川サミットを要求しました。第 1 回サミットは 1984 年に近畿地方整備局も参加して開かれ、森林の保全・貯留池^{ちよりゅうち}・遊水地^{ゆうすいち}づくりなどの総合治水対策を協議し、大和川河川事務所に河川環境課が設けられました。



毎日新聞 1982 年 8 月 3 日夕刊など各紙が 1 面で報道



阿麻美許神社西側の落堀川（今井戸川）



今池水みらいセンター処理棟屋上のひろば